

英単語集の効率的な使い方と覚え方

1.英単語集を破ってしまおう。

英単語集で単語を覚える場合、まず**英単語集を破って小分けにして使う**ことをお薦めします。多くの英単語集は、レベルやユニット別になっています。そのキリのいいところで破ってしまうのです。こうすることのメリットは

- ①(丸々一冊よりかさばらなくなるので)持ち運びに便利になる。
- ②小分けにすることによってその一冊の冊子で覚えなければいけない語数が減るので、達成目標日数も短くなり、やる気もわいてモチベーションをキープしやすい。

といったところがあげられます。

具体的な破り方の方法ですが、

- ①英単語集を破りたいところでまず思いっきりギュッと開いて、丈夫なはさみでジョキジョキと切り離す。
- ②切り離してできた冊子の背に布製のガムテープを貼って補強する。できれば茶色以外の色のテープを使用した方が見栄えはいい。
食品揃えの多い文房具店等では「製本テープ」という、(製本)専用のガムテープを販売しており、カラーバリエーションも豊富なので、そのようなものを利用するのもいいだろう。

2.英単語の「仕分け」をする。

次にやるべきは「仕分け」作業です。まず英単語集を破って作った冊子の単語を以下の要領で分類(つまり「仕分け」を)してみるのです。

- ①**意味もスペルも発音も語法もきちんと理解できているもの** →○印を付ける
※意味が複数ある語の場合、太字(や色字)になっている意味を知っていれば、とりあえず「理解できている」カテゴリーに入れていい。

②何となくわかるのだが、今ひとつあやふやさが残るもの →△印をつける

③全く知らないもの →×印をつける

このように分類してみると、その冊子の中の単語全て覚える必要はないということに気付くはずです。

次に、②と③の単語がどれだけあるか数えます。あとはそれらをいつまでに覚えるかという計画を決めて、その期限内に終わらせるには1日あたりどれだけやらないといけないかを計算します。それができてしまえば、あとはその計画を実行するだけです。

3.どこまで覚えるべきか。

英単語集で単語を覚える際に注意すべきことは、派生語や語法までいっぺんに覚えてしまおうなどと思わないことです。上でも書きましたが、複数の意味(訳)がある単語の場合、have, go, get 等といった基本単語を除けば、とりあえず太(色字)になっている部分の意味(訳)を覚えれば結構です。英単語集で何から何まで(その隅から隅まで)覚えようというのはやはり無理があります。

派生語などについても、例えば scarce という語の欄に scarcely という語と一緒に載っていれば、それは scarce の副詞形だということくらい(後で述べる接尾辞についての知識が身につけば)簡単に類推できます。また polite の欄に impolite という語と一緒に載っていれば、それは polite の反意語だということくらい(これまた接頭辞についての基本的な知識が身につけば)簡単に類推できます。ですからこれらいわゆる派生語をそんなに気にすることはありません。まずは基本となる意味を一つ覚えて、その他の意味や派生的な知識については実際に読む英文の中で身に付け、付け足していくようにした方が効率がいいと言えるでしょう。

※もちろんその単語集で、要注意の語法、派生語等として記載、説明があれば、それについてはしっかりマスターしておくに越したことはない。

その単語のスペル(つづり)までしっかり覚えて、書けるようにまでなるべきかについては、その単語のレベルによります。特に英作文が受験で必要な人については、作文で自分が使うレベル(一般的には中3～高校一年生程度)の単語について

は書けるようにしておくべきでしょう。しかし読解でしか出て来ないような単語、例えば

procedure, sufficient, significant, profession…

といったものについては、その意味がわかればいいわけで、スペルまで覚える必要はないと言えるでしょう(もちろん受験で作文はないが、将来英語を専門的に学びたい等という人、あるいは志望校で単語のつづりを書かせる問題が出るという人もいるでしょう。そのような人はスペルまできちんと覚えるといいでしょう)。

4.五感をフルに使って覚える。

(目で)読むのは当然ですが、プラスして「耳で聴く」「手で書く」「音読をする」、つまり**五感をフルに使って覚えましょう**。音読で例文等を読む場合には、身振りも使って言うのもいいでしょう。そうやって、英語が頭に入ってくるルートをできる限り増やすことによって、脳の中でそれがより定着しやすくなります。特に「音読」や「聴く」という作業は、**正しい発音やアクセントを身に付けるためにも非常に良いトレーニングになります**。

また最近ではICレコーダー(ボイスレコーダー)を持っている人も多いと思います。それに自分で単語とその意味を録音して、自作の単語暗記用録音ファイルを作ってみることをお勧めします。それを聴くと、自分の声だけに暗記しやすいものです。それにレコーダーに吹き込む作業自体が、単語の暗記に役立ちます。この作業はカセットテープレコーダーでもできますから、ICレコーダーを持っていないという人もぜひやってみると良いでしょう。

5.暗記作業をはじめる際の儀式を決める。

皆さんはイチロー選手が打席に入るとき、必ず同じ動作をするのを見たことがあると思います。プロゴルファーのタイガー・ウッズ選手も、スイング(やパット)をする際、必ず一連の同じ動作をします。彼らはこれらの動作をすることにより、

集中モードにスウッと入っていくようにしています。

このような一流スポーツ選手の手法を、暗記作業にも活用しましょう。つまり、**暗記作業に入る際の一連の動作(儀式といってもいい)を自分で決めておく**のです。

例えば、ほっぺたをパンパンと二回両手でたたいて、「ヨシッ」と気合の声を出すとか、首や腰をストレッチして三回深く深呼吸をすとか…。繰り返しているうちに、その(一連の)動作をした瞬間に、脳がスウッと暗記モードに入ることができるようになり、作業能率もグンと上がってきます。

それから、**暗記作業をする際に使うマーカーなどの筆記用具は、必ず同じもの(同じ色のもの)を使用する**ようにしましょう。そのマーカー(ペン)を持ったら暗記モードに入ったということを脳に覚え込ませるのに役立ちます。

6.具体的な「覚える」ための作業手順。

①まずは20個の単語を、単語 → 意味、単語 → 意味 の順で3回通り繰り返し、暗記作業をする。

②次に意味の部分を隠し、その単語を見ただけで意味がサッと出てくるか(つまり覚えられているかどうか)を確認する。これも3回繰り返す。

③最後に例文で本当に覚えられたかどうかを最終確認をする。

※これができるように英単語集は、例文付きのものを選ぶようにしたい。が、かといって1つの英文中に複数の覚えるべき単語が散りばめられているような単語集は、例文が難しかったり不自然だったりするので、(違和感無く覚ええられる人は構わないのだが)英語が苦手な学生は避けた方がいいかもしれない。

この一連の作業を、30分以内で行います(もし30分でできなければ、覚える語数を20から15に減らすなどしてください)。30分経ったら5分休憩し、その後もう一度それらの単語がどれだけまだ頭に入っているかをチェックします。受験期初期(春～夏)であれば、英単語力修得にあてる時間はこれくらいでいいでしょう。受験期後半(秋～冬)で、短期間で語彙力を伸ばしたい場合には、この一連の作業を、自分の目標、ノルマに合わせて2セット(人によっては3セット)繰り返します。

これらすべてが終わったら、いったん他の勉強に移ります。そして9時間以内にも

う一度暗記した単語が記憶に定着しているかを確認します。なぜ9時間以内かという、ある実験によれば人間は、一度覚えたことも9時間でその三分の二を忘れてしまうというのです。したがって単語についても、一度覚えたものを9時間以内に再度確認するのがいいのですね。

そしてこの一連の作業を3日間続け、4日目はそれまでの3日間の復習の日とし、忘れてしまっているものがないか再度チェックします。

この要領で2週間が経ったら、そこまでの英単語全ての総まとめの復習を行います。更に(破って作った)冊子の単語全てをやり終えた時点で、その全ての最終確認をまたそこで行います。

7.自作の単語カードや単語ノートを作る。

こうして暗記作業をしていく中で、「どうしても覚えられない単語」「すぐに忘れてしまう単語」というのがやはり出てくるものです。そのような単語については、別に単語カード、あるいは単語ノートを作り、そこに「単語」「意味」「発音記号とアクセント」「例文」を書き出してそれを持ち歩き、日頃こまめに確認してマスターしてしまいましょう。

単語ノートの場合、作成したページをコピーしてトイレなどに張り付けておけば、トイレも英単語修得のトレーニングの場所にすることができてしまいますね。

8.英単語集の後ろに付いている'索引'を活用して暗記を効率的に。

大学受験の単語には

- ①しっかり押さえておかなければならないもの
- ②英文中でなんとなくその意味をイメージできれば十分なもの

の2種類があって、覚える際の力の入れ具合も、おのずと違ってきます。英単語集の最後尾に載っている「最難関単語〇〇」とか「難関大学用単語」などというのが②にあたります。大学受験を目指す受験生の場合、まず①の単語の習得に全力を傾注しましょう(②にあたる単語などは、たとえば国立志望なら、センター

試験が終わってから取り組んでもいいくらいです)。

では次に、例えば長文を読んでいる場合などに知らない単語が出てきた場合、それをどの程度の力加減で覚えればいいのかという問題にお答えしましょう。

実はそのような場合に一つの目安になるのが英単語集の索引なのです。長文を読んでいるうちに知らない単語が出てきたら、その単語が(自分の持っている)英単語集に載っているかどうかを索引で調べます。その結果もし英単語集に載っていないような単語であれば、これは覚える必要もないということになります。

もし載っている単語なら、それは覚えなくてはいけない単語だということになるのですが、それが(英単語集の)どこに載っているかを次に確認するのです。特に「基本単語」「重要単語」「センターレベル」といったレベルにその単語が入っているとすれば、これはゼッタイ覚えなければならない単語だということが確認できます。逆に、英単語集の中に載っている単語だとしても、最後尾の「最難関単語」とか「難関大学用単語」の中に入っているものだとすれば、「英文中でなんとなくその意味をイメージできれば十分なもの」(人によって、そこまでのレベルを必要としないのなら覚えなくてもいい)だというふうに、**どの程度の"力加減"でその単語に臨めばいいのかも分かります。**

このような作業が手早くできるように、**単語集の索引部分はまたそれだけ別に切り離して、索引だけの冊子を作ってカバンに入れ、常に持ち歩くようにする**といいでしょう。

それから、既に覚えた単語なのに、自分の知っている意味では、文脈に合わなかったり、つじつまが合わなかったりするときは、必ず辞書を引いて、「新しい意味」を付け加えていくことを習慣にすることも大切です。

9.英単語集はどれがいいのか。

毎年新しい英単語集が出版される中で「これがいい」と言い切るのも難しいところがあります(個人的な好みもあるでしょう)。

参考までに述べるとすれば、偏差値50以上の大学を目指すのであれば

- ①ターゲット1900
- ②単語王

- ③キクタン(Basic)
- ④ユメタン(センター試験レベル)
- ⑤ジーニアス英単語
- ⑥英単語フォーミュラ1700
- ⑦システム英単語ver.2

などがあげられるでしょう(繰り返しますがこれが全てというわけではありません)。

これらの中でも「ターゲット1900」については準拠問題集などまで発売されているなど、その充実度は群を抜いています。また意外にお薦めなのは「キクタン」で、レベル別に4種類あり、内容もCD付きであることは当然ですが、

- ①一日に覚えるべき単語があらかじめ決まっているのでスケジュールを立てやすい。
- ②例文が「フレーズ」「センテンス」と段階的に分かれていて親切。
- ③一週間単位で長文が用意されていて、その週に覚えた単語を長文の中で確認ができる。

といった工夫がされています(やはり後発、つまり後で出版されたものは工夫がより施されているものが多いですね)。

最近よく見かける「速読英単語」についてですが、これを使って(この本が狙っているところの)効果が出る人というのは、長文を読むための基本的な読解力を持っている人です。逆に言えば、長文を読む力のない人の場合、(長文を読まない、読めないのだから)結果として色字になっている単語とその意味を確認するだけになってしまい、この本の目指している効果の多くは期待できない結果に終わってしまいかねません。

「DUO」のような、1つの英文中に複数の覚えるべき単語が散りばめられているような単語集の場合、繰り返しになりますが、例文が難しかったり不自然だったりすることがままあるので、(違和感無く覚えられれる人は構わないのですが)英語が苦手な学生は、手を出すのは避けた方が無難かもしれません。

早稲田・慶応・上智・京大・一橋といった、特に難関大を目指す人は、「次の一冊」として「速読英単語 上級編」「キクタン Advanced」等に進んでいくと良いでしょう。